



豪雨災害と鉄道に関するコラムです。読んでみよう。

① 日本では山地を越えて鉄道を建設する際、「あくまでも川に沿うのが基本」となってきたのはなぜですか？

日本は山の国であるため、山地を越えて鉄道を建設する際は進路を川沿いに取るのが常道だった。山に分け入った上流でも、どうにか川べりに用地を見つけ、それでも無理な場合、敷地を確保できる対岸があれば鉄橋を架けて渡るなど、可能な限り緩やかなルートを求めてきたため川に沿うのが基本となった。

.....
.....
.....

東西南北

2020.7.14



日本は山の国である。山地を越えるために鉄道や道路を建設する際、進路を川沿いに取るのが常道だった。山に分け入った上流でも、どうにか川べりに用地を見つけ、それでも無理な場合、敷地を確保できる対岸があれば鉄橋を架けて渡るなど、可能な限り緩やかなルートを求めてきた。ために鉄道は、どこまでも川に沿うのが基本なのだ▼川と付き合う典型的な路線がJR久大本線である。大分駅を出ると由布院駅まで

高みには登れない。敷地を確保できる対岸があれば鉄橋を架けて渡るなど、可能な限り緩やかなルートを求めてきた。ために鉄道は、どこまでも川に沿うのが基本なのだ▼川と付き合う典型的な路線がJR久大本線である。大分駅を出ると由布院駅まで

は大分川、水分トンネルを抜ければ玖珠川をはじめとする筑後川水系に寄り添う。間近に川を望める場所が多い▼同線は2017年7月の福岡・大分豪雨で日田市内の鉄橋が流失した。復旧を急ぎ18年7月に全線開通したが、今回の豪雨では九重町の豊後中村―野矢駅間で鉄橋が流れ、再び切断された。いずれも川に沿っているが故の出来事である▼JR九州は久大本線を観光戦略の重要な路線と位置づけてきた。沿線の温泉地を結ぶ特急「ゆふいんの森」は人気だったが、今回の災害で運行はどうなるのか。そして何よりも鉄道は通勤や通学、買い物や通院に使う生活の足である。道路も至る所で被害を受けた。課題は多かるうが、鐵路の一日も早い復旧を望みたい。

2020年7月14日付 大分合同新聞1面

②川と付き合う典型的な路線であるJR久大本線は過去、そして今回の豪雨でどんな被害を受けましたか？

2017年7月の福岡・大分豪雨で日田市内の鉄橋が流出。復旧を急ぎ18年7月に全線開通したが、今回の豪雨では九重町の豊後中村―野矢駅間で鉄橋が流れ、再び切断された。

③筆者がこのコラムで一番言いたいことは何かを考え、12字以内で見出しを付けてみよう。

「鐵路の一日も早い復旧を」など自由に考えてみよう。